

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 金 II	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(哲学入門) Humanity and Culture (Introduction to Philosophy)		
対象年次 1・2 年次	講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学	科目分類		人文・社会科学(哲学)
担当教員:ファーデン・ゲアハルト /Eメールアドレス: g-faden@net.nagasaki-u.ac.jp 研究室:環境科学部一階 TEL: 095-819-2774 /オフィスアワー:講義の前後			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい 哲学は大変難しく、実際生活から離れた学問とされていますが、実は哲学をやらない人はいません。つまり、人間は誰でも自分の魂、自分の生きるべき方法、存在の本質などについて何らかの概念を持っています。この講義では、この概念について考察します。			
授業方法 プリント資料に基づいて哲学の基礎問題を学習します。			
授業到達目標 学生が形而上学の意味、心身の問題、哲学と科学、宗教と科学の関係について説明できることを狙っています。			
授業内容(概要) 哲学の主要問題を論じます。 第1回~第2回 哲学の根源と本質について。広義の哲学と狭義の哲学。理論(theoria)の本来の意味。哲学には進歩があるかについて。 第3回~第4回 形而上学の基本概念: 魂、自由、存在、神について。 第5回 相対主義、実用主義、実証主義、不可知論とその批判。現象学の方法(本質直観)について。 第6回~第7回 心身の問題 I: 脳研究と哲学。人間精神は脳の附随現象か自立した存在かについて。 第8回~第9回 心身の問題 II: 形而上学に基づく説(Platon, Leibniz)と唯物論に基づく説。 第10回~第11回 進化論。ダーウィン主義(ネオ・ダーウィニズム)と自然哲学。生命と意識の根源問題。生物は偶然か知性的計画の産物かについて。宗教と科学の関係(Galilei, Darwin, Freud)。 第12回~第13回 人間の特徴は何であるかについて。精神と衝動。形而上学に基づく人間観(Scheler)と生物学に基づく人間観(Monod, Lorenz) 第14回 まとめ 第15回 全授業の総括			
キーワード			
教材・参考書	M.シェーラー (Scheler)、宇宙における人間の地位。 カール・ポパー (Popper) & ジョン・C.エクルズ (Eccles)、自我と能。 プリント資料。		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度 20%、定期試験 80%。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			